

第10回 東海村（仮称）村松地区周辺地域活性化計画策定検討委員会

開催日時	平成30年2月16日（金） 13：30～16：25	場 所	村松コミュニティセンター 2階 会議室
出席者	委員／◎小原委員、○井坂委員、川亦委員、坪委員、安尾委員、荒木田委員、川崎（敏）委員、宇野澤委員、鈴木（さ）委員、 事務局／村長公室 企画経営課 佐藤課長、高橋課長補佐、照沼主事、富永主事 建設農政部 都市整備課 庄司課長、橋本課長補佐、横山係長、浅野主任、大内技師 欠席／久賀委員、原委員、藤田委員、鈴木（千）委員、川崎（道）委員 (◎：委員長、○：副委員長)		

○当日の活動・協議内容

※13：30～14：50 天神山（真崎城址）、真崎古墳群の現地見学

1 開会（企画経営課佐藤課長）

2 小原委員長あいさつ

昨日、茨城大学で“若者世代に選ばれる地域の選び方”をテーマにシンポジウムを行いました。人口が大正時代まで戻ってしまったことが話題となっており、移住・定住に注力している島根県での取組みについてのお話を聞く中、これまで、（村松地区へ）来てもらうことを中心に考えていましたが、コンセプトには「住んでみたい」も含まれます。この地区は住民活動が盛んだと伺っておりましたので、リンクしたところがありました。移住や定住の受入・世話役のような組織が地区にあるところは、移住・定住が盛んだと聞いたときに坪委員の顔が浮かびました。地域でどんな暮らしができるか、どんな価値があるのか。この地区は先頭を走っている可能性があると思っていたのですが、現地見学をしたところ、すでにそういう取組みが行われているようです。子ども達の郷土愛醸成や学習のネタになるものが多数あり、ぜひ、そちらを踏まえてご議論いただきたいと思います。先ほど、天神山（真崎城址）を訪れた際に、環境政策課の方が「まだまだ、様々なものが発見できる」と仰っていました。こちらについて、宝探しのような形でボランティアを募ることもできるのではないかと思います。また、二つの城址が残っているのは、非常にこのエリアでは珍しいことです。それが桜と結びつけば、ベタかもしれません、「桜と城」となります。幼保跡地エリアの検討の際にも「桜」というご意見が出ていたので、全体としても何かできないかと思いました。毎年何かを行うのが難しいのであれば、国体へ向けてひとまず一回でも取り組むことができるかと思います。それから、古墳群という看板を見たときに、村松地区は歴史遺産群としてまとめることができるのでないかと思いました。また、自立した住民活動が非常に活発だと勉強させていただきました。本日も、全体コンセプトとの照らし合わせを意識していただいてご議論いただきたいと思います。

3 議事

（1）細浦青畠エリアの取組みについて

※企画経営課 照沼主事より、会議の進め方について、細浦青畠エリア現地写真、資料1-1及び資料1-2について説明（省略）

※坪委員より真崎の未来を考える会の活動について紹介（省略）

→ 細浦青畠エリアについて、非常に良いイメージを高める印象を受けた。世界の共通ワードにもなっている，“SATOYAMA（里山）”を連想させる地区でもある。また、牛久自然観察の森という退職者によるボランティア活動が思い出された。東海駅周辺を都市とすれば、都市に最も近い歴史地区となる。中部地方のアンケートから、若い母親世代は都市公園や自然が豊かな所で子育てをしたいというニーズが分かっている。そういういた数字的な意味づけも可能かと思うので、これらを踏まえてご議論いただきたい。（小原委員長）

※説明に対する質疑はなし

（議題） 細浦青畠エリアの取組みについて

A グループ

※進行：橋本補佐

- 実際に歩いてみて分かったが、個別で考えていたものが意外と近く、似通っているようだが、少し異なる。そして、高さが同じで、何とでもできる地帯になっている。また、散策する場合、大変ではないが、少しは労力が要る。（川亦委員）
- 細浦青畠の歴史を学ぶ散策コースがあってもいい。螢が出るところをもっと整備してもいい。（川崎敏委員）
- （真崎の未来を考える会で真崎古墳群周辺を）整備したときも、螢の生息地はあまりいじらないようにした。側溝のコンクリートの苔部分が螢の生命線であり、側溝をきれいにするとダメだそうだ。緑化コンクリートにするといいのかもしれない。（坪委員）
- 今の（真崎古墳群の）登口は整備しないと危ない。行政が枕木等、整備してもいいのではないだろうか。（川崎敏委員）
- 高齢者は特に危険だろう。ゆるいスロープがほしいという意見も出ている。（坪委員）
- 真崎古墳群と押延溜を結ぶ動線は、天神山まで下がらないとないのか。（川崎敏委員）
- 今のところそうだ。（橋本補佐）
- 資料1-2で、「真崎城址」と記載のある箇所から後ろ側は整備していないのか。（川崎敏委員）
- そちらまでは整備していない。手前で止まっている。村で買収するのは切通しから向こう側だ。（橋本補佐）
- 村の買収予定地は、おおよそ、資料1-2の赤い部分になる。ただ、赤い部分以外も、埋蔵文化財のエリアとなっているので、真崎城址の辺りも含めた一体を掘る場合は、村への確認が必要だ。（大内技師）
- 細浦青畠エリアは元は海だった。今は田んぼつづきになっているが、基本は海つながりだ。このエリアでは、地形が一番重要だ。細浦を囲む環境コース・歴史コース・地形を見るコースがあってもいい。こここの基盤は、原子力施設の基盤と一緒にすごく硬い地層になっている。その上に、川が運んだ土砂・礫の堆積層があり、その間から水が出ていて、阿漕ヶ浦の水の層と繋がっている。皆こういった水を使っていたはずだ。そういういた所を螢が選び、我々が生活していた。クレソン等の植生を探すコースがあってもいい。めだかやサンショウウオもいる。細浦を囲む動線を自然つながりで示せると楽しいだろう。大神宮や虚空蔵堂を訪れた人や駅から来る人へこちらにこんな魅力があることを看板等でPRできればもっと良いのではないだろうか。ただ、看板やQRコードでの情報発信は必要だ。土産や旬の情報を出せると良いだろう。

(坪委員)

- ➔ 歩くと意外と近いので、大神宮の方まで含んでの細浦青畠とすると面白い。(川亦委員)
- ➔ 歩いて分かったが、天神山もすごく眺めが良い。城のイラストでも作って、下を通る人がどこに行くと何があるか分かると、距離が縮まると思う。それにスマホ等のデジタルツールも活用したい。こここのポイントは繋がりだ。(坪委員)
- ➔ 「歴史」だけでなく、「健康」もプラスしたい。興味の幅を広げることができる。(川亦委員)
- ➔ 今日、仕事で笠松運動公園へ行ったが、歩いている人がすごく多かった。ただし、歩くだけだ。舗装が必要だが、細浦青畠エリアに3km・5kmコースのラインを引いてあげれば、その中に真崎城址や古墳群を含めることができる。以前は、川根の辺りでマラソンする人が多かつたが、今は、橋に段差ができるランニングするのに不便だ。ランニングコースを整備してもいいだろう。(川崎敏委員)
- ➔ 砂浜の歩きづらさは魅力だが、コンクリートの段差はそうではない。(坪委員)
- ➔ 天神山と真崎古墳群のふかふかさはいい。道路とのギャップを感じてもらえる。(川亦委員)
- ➔ 歩く・走る・サイクリングできるといい。道は全部を舗装する必要はない。なるべく手を加えず里山らしさを活かしたほうが良い。(坪委員)
- ➔ 古墳群から出る水の魅力はすごく良い。螢やビオトープで生かしたい。(川亦委員)
- ➔ 村は観光で生計を立ててきたところではないので、今でも歴史資源等が未開発で残っているのだろう。(川崎敏委員)
- ➔ 以前に、廣瀬誠先生が「天神山は狭いが、北側と南側の植生が異なるところがすごく魅力的で、貴重な場所なので大事にしてほしい。また、鳥は住まないが、遊びに来る山なので、そこを良くするといい」と仰っていた。(川亦委員)
- ➔ 動植物の差異について、土地の成り立ちや植生の成り立ち、歴史の成り立ちのストーリーが分かれれば、魅力が倍化する。(坪委員)
- ➔ 真崎城址も石神城址も城主は異なるが、時代が同じぐらいで、目の前に海があったことも同じだ。(川崎敏委員)
- ➔ そういう共通点をまるごと博物館としてお互いPRできるといい。行政でも健康・福祉等課ごとに違う。我々も様々なグループがあるが、ばらばらだ。それを総合化して、地区ごとにまとめることができるといい。私が所属する団体も、自分達だけではやりきることができないこともある。(坪委員)
- ➔ 村自体が歴史の博物館という意識を村民に持たせ、(仮称)歴史と未来の交流館には、村の資源を展示し、「行ってみたい」と思わせないといけない。(川崎敏委員)
- ➔ 晴嵐荘病院も(まるごと博物館に)含めてほしいぐらいだ。歴史的に価値があるだろう。(川亦委員)
- ➔ 茨城東病院には昔、見晴台があった。そこからは白砂青松と海が見えた。今は入れないが、10名程度で草刈機で刈ればアクセスが良くなる。そこには石碑がたくさん建っている。ただ、景観として、サイクル機構の建物が目に入ることとなる。村松晴嵐にも5mぐらいの櫓を建てれば、昔の白砂青松が見えるのではないのだろうか。(川崎敏委員)
- ➔ 少し海の方へずらしてもいい。つながりを考えれば、(各エリアに)シンボルの高い建物があり、お互いアイコンタクトができればすごく良い。ここに看板がほしい。また、細浦青畠エリアには駐車場が少ない。古墳群には駐車場(真崎コミセン)があるが、バスが入れない。(坪委員)
- ➔ (天神山の)駐車場について、村松コミセンぐらい離れていてもいいのかもしれない。すぐ近くに駐車場があるとそれで終わりだ。(川亦委員)

- ポイントには大きな駐車場があり、車を降りた後に自転車や散策等、有機的な交通計画があるといい。この地区の活性化には必要ではないだろうか。(坪委員)
- 資料1-2に、「五反田・細浦買収済用地」とあるが、ここを駐車場やお休み処にしてはどうか。細浦の中心に位置している。(坪委員)
- そこは散策路とする予定があるのだろう。(川崎敏委員)
- 以前にご説明したように、阿漕ヶ浦公園周辺に広めの駐車場ができる予定なので、そこから歩いてもらうことになるだろう。(橋本補佐)
- 駐車場は、2つのコミセンと阿漕ヶ浦公園周辺の3つぐらいだろうか。(坪委員)
- 阿漕ヶ浦の駐車場から、どう人の流れをつくるかだ。(川崎敏委員)
- みなさんからのご意見があれば、駐車場から下へ降りることができますように、動線を造ることも検討したい。(橋本補佐)
- 道幅が狭いので、車はあまり通せないが、阿漕ヶ浦公園周辺駐車場から降りて、細浦方面へ散策路を通すことは検討しているのだろう。(川亦委員)
- 車も通れるといい。(坪委員)
- 難しいところだ。あまりに車が通ると危険なので、人が通りづらくなってしまう。舗装もされていないが、砂利の散策路として売り込むこともできるのではないか。(橋本補佐)
- 天神山周辺は舗装されているが、真崎古墳群の(細浦側の)麓はそのままなのか。(川崎敏委員)
- 村道認定したが、農繁期しか車が通らない。(橋本補佐)
- それならば、自転車道路等にしてはどうか。(川崎敏委員)
- 歩くための道路にてもいい。そこをどう考えるかだ。(橋本補佐)
- ここは自然に富んでいるので、笠松運動公園より楽しく歩ける。(川崎敏委員)
- 女性は、見通しが良くて安全で近い舟石川近隣公園を歩くと聞く。(川亦委員)
- 天神山は山なので、危ないかもしれない。(川崎敏委員)
- 笠松運動公園は、みんなが集まる所なので、ステータス的な意味合いがあるのかもしれない。ここ(細浦青畠)も安全をPRできれば人が来るのはないか。(坪委員)
- 靴が汚れる砂利道は歩かないだろう。笠松運動公園は平坦できれいだ。(川崎敏委員)
- 一方で、アスファルトばかりだと疲れるという意見も聞く。砂利道が丁度いい刺激になっているようだ。また、夏のアスファルトは暑いだろう。(川亦委員)
- 季節ごとに歩くコースを変えてもいい。冬は見通しが良くなるだろう。(坪委員)
- 夏ならば、緑が茂り、古墳群は涼しいだろう。魅力がたくさんあるので、少しの整備でいい。(川亦委員)
- ソフト面の取組みを繋げるのが私たちのテーマだろう。(坪委員)
- 真崎区は真崎区で頑張っているのが分かった。宿区も頑張らないといけない。(川亦委員)
- パワーが限られているので、連携したい。意外と、各地域で何をやっているか分からない。(坪委員)
- 現地見学で感じたのだが、藪椿が真崎地区にも植えてあったが、竹林と椿があり、外国人が好む景観なのではないだろうか。(川亦委員)
- 植物が好きな人は遠くからも見に来る。お花つながりで活性化できる。(坪委員)
- 少しの群生があれば、有名になる。天神山の麓には稚児百合が一斉に咲くところがある。劇団とみかるで上演している「真崎城の白百合姫」のお話があるが、真崎区であれば、(白百合を)群生させるといいのではないか。(川亦委員)
- 山百合は5万円ほどするだろう。(荒木田委員)

- 村でスカシユリ育成のボランティア活動を行っているが、山百合の方が育成しやすいだろう。
スカシユリは育成が難しい。(川亦委員)
- 昔は海岸にハマナスもあった。(荒木田委員)
- 黄金色の玉虫も増やしたい。キーホルダーやお守りに丁度いいのではないか。また、桧枝岐村へ行くと、サンショウウオのソフトクリームがあり、見た目はグロテスクだが、食べたらぽかぽかする。目玉商品があると、人が来るのではないか。(川亦委員)
- 排水路を地下へ潜らせて、昔ながらの川へ戻せないのか。昔は網で鮎を捕まえることができた。(荒木田委員)
- 今は技術が進んでいる。川らしくない側溝を何とかできないだろうか。(坪委員)
- 中央排水路は下水を流していないので、雨水だけだ。ただ、雨が降ると溢れてしまう。調整池でもあるといい。(川崎敏委員)
- 東海病院の下の橋の辺りに調整池を造る予定だ。(橋本補佐)
- 細浦青畠で田んぼアートを行いたい。(坪委員)
- この辺の田んぼを作付けしている人は高齢化しているので無理だろう。ただ、そういった方へ地域で田んぼを作りますと言ったら…(可能性があるのではないか)。(川亦委員)
- 道路からイモゾーファミリーが見えたらすごく宣伝になる。畠アートも良い。(坪委員)

Bグループ

※進行：高橋補佐

- 「真崎古墳群の周辺が海だった」と言われるが、「だから何だ」と思う人もいる。人が居住していたと思われる横穴や昔海だったことが分かる地層もあるが、本当にスポット的な案内になる。(安尾委員)
- やはり、(資源を) 繋げないといけない。ガイドもないと分からないだろう。(小原委員長)
- (真崎古墳群での古代体験のイベントにおける) ガイドも勉強してくれているが、リピーターや新しい来訪者に繋げることは難しい。ただ、景観は良い。ここに建造物を造ろうとはみなさん思わないだろう。(安尾委員)
- 真崎城址の全体図はないだろうか。(小原委員長)
- ない。発掘調査も行われていない。(照沼主事)
- 「自分ならどのようなお城を造るか」と、子ども達に考えてもらってもいい。発掘しても、どのような城かまでは分からないので、想像して楽しむ方がいいかもしない。(安尾委員)
- 子ども達が歩けるということは一案だろう。全体を歴史地区として、時代が異なる“向こうの古”と“こちらの古”を繋ぐイメージはどうか。外から来た人へは、有名な歴史資産群があることを説明した方がいい。大神宮の方まで面的に含めることができる。(小原委員長)
- 歴史資源はあるが、すごく限られている。そこに現代のエッセンスを加え、担い手をいかに増やすかという課題もある。例えば、「城を造って遊べるようにする」というところを到達点とし、“こんなお城コンテスト”を開催し、造るところまで取り組むことは考えられる。昔ながらの住居を造って、一部をプレイパークにしたいという想いもある。斜面にスライダーといった、昔と今を上手く取り入れ、造る過程も楽しむことができれば、人が来る理由になるかもしれない。子ども達が泥まみれで遊ぶことができる場所も意外とない。来てもらえば場所としてなじみ、ここだけで帰らず、点が線になっていく。阿漕ヶ浦公園がホッケー会場として充実していれば、スポーツ団体が来て泊まる。ここで遊んだ帰りに食べたり買ったりする流れも

できるだろう。(安尾委員)

- ➔ よく、「考古はお金を生み出さない」と言われている。学術的には、そんな必要はないと主張されるが、地域活性化には、何かを生じさせたい。今は、面的なイメージの良さに繋がり、郷土教育の側面もあるが、もう一声何かがほしい。(小原委員長)
- ➔ VRを活用して舟が行き来する様子や、天神山に城が見えればちょっと行ってみようと思うかもしれない。ただ、これはあくまでオプションだ。現実的に、これだけのためには訪れないだろう。(安尾委員)
- ➔ 駐車場には昔、砂の滑り台があり、子ども達が自由に遊んでいた。(傾斜が) 急だったので、小さい子どもにとっては恐怖だっただろう。(宇野澤委員)
- ➔ 子どもの遊び場は記憶に残る。蛍はいかがか。鑑賞会等はあるのだろうか。(小原委員長)
- ➔ 生涯学習課のまるごと博物館の一環で蛍鑑賞会を行っている。(照沼主事)
- ➔ 様々な素晴らしい資源がある。お城や蛍等、象徴的なものを絡ませながら地道にPRしたい。ただ、イベントやお金とどう結びつけるかは難しい。以前に、ここに強烈に美味しいお米はないのかと聞いたが…。地区の名前を付けてブランド米化も考えられる。(小原委員長)
- ➔ 久慈川の方面の方が…(有名かもしない)。(井坂委員)
- ➔ 里山は可能性があると思う。コンセプトのキーワードを対照させないと輝かないかも知れない。“未来”・“科学”に対照させた“歴史”があるから面白いといったストーリーが必要だろう。(小原委員長)
- ➔ こんな歴史的な場所で科学を感じることができるといった具合に、資源が組み合わされれば、魅力になる。(安尾委員)
- ➔ 東海村のイメージはやはり“科学”だ。つくば市のように、知識都市で売り出すことができるかも知れない。それに関して、好対照があればいい。東海村の他地区から差別化を図り、際立たせるためには「内陸部にはこれが、沿岸部にはきれいな海が…」といった面的な繋がりや日本の社寺を繋ぐようなイメージがあるといい。(小原委員長)
- 「県下一低い山」や「10の古墳」等のキーワードはある。全体を歴史遺産群とし、PRの仕方の選択肢はある。(安尾委員)
 - ➔ 「里山や歴史遺産群で遊ぼう」と打ち出すことはできる。(小原委員長)
 - ➔ 整備がどちらも途中だ。また、どちらもエネルギーを地域資源に頼る部分が大きい。また、ホッケー・国体もまだまだ浸透していない。関係者は分かっているかもしれないが、一般は国体に期待がなかなか浮かばない。(安尾委員)
 - ➔ 会場周辺地域はテレビに映る可能性やPRに期待するのだろう。(小原委員長)
- 世界遺産のように、歴史遺産地区として全面的に出したほうがいいのではないだろうか。これだけ駅が近い古墳群はない。そこは東海村の良さがでており、コンパクトにまとまっている。少し歩けば古墳群から城址、有名な社寺がある。また、○○百景といったワードをメディアは好む。村全体としてもまるごと博物館に取り組んでいる。(仮称) 歴史と未来の交流館と繋げることもあり得るだろう。駅からは、レンタサイクルがないと辛い。初夏などは美しい景観が広がるのではないだろうか。(小原委員長)
- ➔ 緑色・黄金色の絨毯が広がる時期や夕日の景観は美しい。一つの想定として、大神宮・虚空蔵堂へ寄ったついでに天神山(真崎城址)の方へ行くことが考えられる。ポケットパークやお休み処かは分からぬが、何かが必要なのだろう。(安尾委員)
- ➔ わざわざ足を運ぶためには、花や桜がきれいといった要素が必要になるのだろう。日本人はお城と桜が好きだ。(小原委員長)

- 山桜が美しいと言うが、何のPRも行っていない。(安尾委員)
 - 天神山（真崎城址）へ登ると、大神宮や虚空蔵堂がとてもきれいに見えると言いたい。整備を考えると、中長期的な課題かもしれないが、実現すれば、写真を撮る人もいるかもしれない。海があり、なぜあの場所に寺社があるのか等、様々なことが繋がるのではないだろうか。村松地区全体を一つのセットとして見てもらうことができる。(小原委員長)
 - 元々、信仰と景勝だ。昔は海が見えたが、今は見づらい。少し高い櫓があれば、海も望める。(井坂副委員長)
 - 天神山の方から景観が見えた方がいいのかもしれない。(安尾委員)
 - 城址も桜も日本人が一番好むものだ。必ず、写真やカレンダーになっており、それを売りにすれば、観光客も来る。(小原委員長)
 - 展望台もいいが、本丸として限られたところを切り取って見てもいい。(安尾委員)
 - 城址ではなく展望台スポットとしてもいい。展望台と呼べば、登る人がいる。(小原委員長)
 - 今まで観光化がなされていなかつた。人工ではないが、人の手が入ることがスタート地点だろう。思い切ったことがないと、次に繋がらない。宿泊することを考えると継続して体験できるものがないと難しいのではないだろうか。(安尾委員)
 - これまでに、原子力科学館や原研見学等、大学科学サークルの合宿があった。早稲田大学の附属高校理系部活動の合宿で十数名が1週間程度泊まったこともある。(宇野澤委員)
 - 今は（宿泊は）ビジネス客が多いのか。(照沼主事)
 - そうだ。また、最近、東海高校とホッケーの練習試合をするために東京の私立女子大のホッケーチームが宿泊した。(宇野澤委員)
 - そこは、まさに狙いの中心だ。そういうところとスポーツ屋を巻き込んで上手く展開したい。マルチ対応ばかりでは他と差別化されない。ホッケーのための更衣室やトイレを整備をすれば違ってくる。また、人の流れをつくるために、旅館にマップを置く・必勝祈願等ができる。参拝に限らず、精神を鍛えるための座禅も考えられるだろう。(安尾委員)
 - 国体を記念して、一番景観が美しい時期にウォーキングやマラソン大会を実施して、この辺を見てもらうこともできる。良くなっていく村松を見てもらい、村松を好きな村民を増やすことも考えられる。(小原委員長)
- 本日紹介させていただいた、押延ため池いこいの森が“関東水と緑のネットワーク百選”に選定されたのは平成25年度のことであり、地域とのワークショップにより天神山の保全方針が固まっているのは平成29年度のことだ。今、地域がどんどん良くなっている時期かと思うが、住んでいる方にとって、実感はあるか。(照沼主事)
- 自分が住む地域ではない。自分が所属している団体は活発に動いているが、周りに目がいかない。そういう意味では連携が必要だ。自治会で言えば、宿区と真崎区が一緒になって何かを立ち上げ、良い例を作らないといけないと個人的には思う。(安尾委員)
 - マンパワー的な課題について、イベントを実施して、人が集まらないとスタッフのモチベーションの維持が難しいとも聞いたことがある。(照沼主事)
 - 私は、人手がないわけではないと思う。スタッフが時間を費やしてまで来たいと思わないといけないが、難しい。限られた人だけでやっているから疲れてしまう。みんな何かしらやることがあり、自由に動くことができない。興味がある人は皆何かしら担っているが、興味がない人を運営に入れることはすごく大変だ。(安尾委員)
- 村内を周ってほしくても、競技応援に来る人は、広域でどこへ行くかを考える。村内に宿泊する選手を対象にするならば、競技スケジュールの間を縫って、気軽に行けるものを設けないと

いけないだろう。（井坂副委員長）

- ➔ 選手は泊まったとしても、朝晩の食事前に少し散歩する程度だろう。（宇野澤委員）
- ➔ 田園風景の代表的な写真があるといい。（安尾委員）
- ➔ 何時ごろに行くと、この写真が撮れると示したほうがいい。また、国体のときだけでもいいので、インスタ映えするスポットを造ることはそこまで予算をかけずにできるのではないだろうか。（井坂副委員長）

まとめ

Aグループ（報告者：橋本補佐）

各地域資源の高さが同じぐらいの所に位置するため、そこを利用してはどうかという意見から、シンボルになるものを見るようにし、（下からでも）何があるか分かるようにすると良いというアイデアが出た。さらに、3箇所（天神山・真崎古墳群・押延ため池いこいの森）を巡ることを検討した。一部砂利道もあるが、あえて舗装しないで、それを活かしてはどうかという意見があり、また、全体的な駐車場の話は以前から出ていたが、真崎古墳群は真崎コミセンの駐車場を活用できる。そこから3箇所を巡るには、押延ため池いこいの森は遠いのではないか、という意見があったが、それに対し、路線ごとに走る・歩く・車・自転車等コースを変えて見せ方を工夫してはどうかという案があった。また、健康を絡めて3kmコース等整備することは、お金をかけずにできるのではないかといった意見をいただいた。

Bグループ（報告者：高橋補佐）

細浦青畠エリアには桜や遺跡、村松周辺エリアには海や社寺がある。そういうものをセットにして活用する必要があり、例えば、天神山に櫓を造って海を見る、VRを活用して来てもらう仕掛けが必要だといった意見があった。また、ここへ来てもらうための目的といった意味では、他の地域と連携してストーリーを上手く作ることが必要だ。国体向けの取組みとしては、国体の開催は9月下旬なので、細浦青畠の景観が良い時期だ。インスタ映えスポットを複数設置してPRすることが必要だといった意見をいただいた。

小原委員長コメント

基本的には、やはり、中心を決めてきたので中心へ向かって連携を図れるか、あるいは、連携しなくともいいという意見も出ていた。国体に関して言えば、健康やスポーツも結びつく一方で、国体を意識せず、来てもらって美しいところを見てもらってはどうかという意見もあった。地域全体のイメージを様々な角度から高める可能性があるのがこの地区だ。これに関しての議論はここで終わりではなく、全体の中間報告を踏まえてまた議論する予定なので、引き続きよろしくお願ひする。

(2) その他（事務局より）

- ・次回委員会：3月中旬頃

4 閉会（佐藤企画経営課長）

（以上）